

ひらく

●一点を支点としてひらく●窓・扉をひらく●道をひらく●口・目をひらく●花がひらく●運をひらく●文化をひらく●インターネットをひらく●新聞・本をひらく●講座・会をひらく

— 未来をひらく、心をひらく —

特集

工夫して進んでいこう

2021.3

48

男女共同参画社会をめざす

特集

工夫して進んでいこう

2020年は、新型コロナウイルス感染症の影響により、今までのような暮らしができない日が続きました。前号では、そんな暮らしの気持ちを81人の方に共有させていただき、工夫していること、意識を変えたことなど、ポジティブな意見が見受けられました。状況は自分たちで変えられないけれど、意識や行動は変えることができます。そこで、もっと詳しくお話を聞きたいと、インタビューを実施しました。

こども食堂 持ち帰りが倍に

「みんなの居場所 風鈴草」は多世代交流型コミュニティスペースです。津田町の一戸建てで大勢の方の支援を受けながら運営しています。2020年の9月からは持ち帰りにしたところ、これまでの倍の利用がありました。1月からは公民館の調理室を借りることにしました。緊急事態宣言が出て夜間の利用ができない間も連絡を受け付けています。



《問合せ》足立 電話 090-1771-7431
メール ryukorin088@softbank.ne.jp
<http://huurinsou.com/>

野菜を食べて農家を応援

緊急事態宣言

による自粛のため、収穫した物を出荷できなくなり困っている農家を応援しようという記事がネットで見つけました。野菜を買うことで応援できるならと参加することに。月に2回新鮮な野菜が届きます。

段ボール箱にはお馴染みの野菜だけでなく、初めて見るもの、使ったこともないものなど10種類くらいの野菜が入ってきます。野菜のことやレシピだけでなく、農家の暮らしのことなどの情報満載のチラシも入っていて、今度は何が入っているかなと子どもと楽しみにしています。

(野菜大好き一家)



草履を仕事でも履いて感覚を忘れない！

コロナ禍の日々、私は趣味のよさこいの草履を仕事中に履いています。高知県のよさこいチームに参加して10年。最初は鼻緒が当たる指が腫れてすごく痒くなりましたが、年毎に腫れが少なくなり楽になっていきました。仕事中に草履を履き始めたのは、今年はまつりが中止になり練習もできないので、足を慣らし、感覚を忘れないようにしようと思ったからです。赤い鼻緒をみると、気持ちだけよさこいモードになりました。来年はまつり当日に新しい草履を下ろし、大空に向かって鳴子を響かせたいです！（よさこいびとM）



アクリル板の向こうから響く美声

地元の会場だったので、思い切ってアルゼンチンタンゴのコンサートへ行きました。背丈の1.5倍ほどの檻のようなアクリル板の向こう側で、イレーネさんが情感たっぷりに歌いました。マスク姿で消毒をして、離れて座った客席の私たちは、強く長く拍手を送り続けました。(Y)



より多くの情報交換のために

視覚障害者パソコン教室では、15年以上前から文字情報を得るためにパソコンを使ってきました。

ネット環境が整っているあすぴあ会議室で定期的に集まり技能上達をはかっています。最も大切なことは、会員同士の情報交換です。コロナ禍では会うことも難しくなっているため、Zoomを取り入れることにしました。Zoomへの入室と退室を繰り返し練習しています。

(代表 羽鳥 富三)

*あすぴあ…小平市民活動支援センター(小平元気村おがわ東2階)



重い腰を上げて…

10年以上放置した実家の家財を、最後はまるごと業者に任せる形で決着をつけました。更地にして買主に引き渡すまでに、1年以上かかる大仕事になりました。小平市主催の空き家セミナー・個別相談会に通って相談をしたり情報収集をしたので、独りでも安心して進めることができました。それは、女性が不動産売買の現場に当たり前にいるという世の中の変化でもありました。(K)



たつなみそう

立浪草に思いを馳せる

コロナ禍で時間ができたので、庭の草取りをしたら、立浪草が広範囲に育っていることがわかりました。その昔、ある実行委員から若い女性たちのフリーマーケットに誘われたときに手に入れたものです。小さな子どもたちが走り回ったり、おしゃべりをしたり、占い師がいたり…ゆっくりとした時間でした。ある参加者の作品がその後『ひらく』の表紙になったことを思い出しました。

(実行委員T)

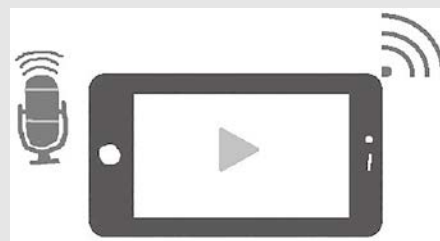


手軽に自分の言葉をラジオにできる時代

自粛中にコミュニケーションに飢えていたので、ママ友とゆるゆると語るPodcastの自主配信をはじめました。初めての挑戦でしたが、編集やBGMをつけてなんとか形に。疲れた、虚しい、寂しいと大っぴらに言いにくい時代ですが、蓋をせず自分の気持ちを言葉にして発することも一つのリフレッシュになると思います。(MAME)

*Podcast :

ポッドキャスト
インターネットを通じて配信された音声や動画を視聴できるサービスのこと。



テレワークでみんなが笑顔！ Oさん夫婦の場合

妻

以前は、夫の帰りはほぼ毎日終電。子どもと1日顔を合わせない日も多く、家族でご飯を食べられるのは土日のみでした。平日はワンオペ育児で心身共に疲労困ぱい。夫の健康面の心配がありました。夫の仕事がテレワークに移行したおかげで家族そろって食事を取れるようになり、通勤時間をいろいろな時間に使えています。自分の仕事の際も、夫に子どもを預ける事ができ、子どもの様子もわかってもらえるようになりました。子どもとお風呂に入り、料理もしてくれてありがたいです。夫の体調面への不安も解消されました。



夫

IT業界に勤務しているため、100%リモートワークに移行できました。家にいる時間が増えたことで、土日だけしか見られなかった子どもたちの日常を知ることができました。愛犬も日々の癒しです。年に数回だった妻との2人ランチの時間もできました。運動不足が顕著になり、子どもとテニスクールに通い始めました。子どもの成長を身近で感じています。日中子どもたちのありのままに触れて、妻の大変さを改めて知ることができました。妻にとっても感謝しています。

課題としては、会議中に子どもが乱入してきて困りました。自宅での仕事は制限がないため深夜に仕事をすることもありました。家族以外と話をすることができず、好きなカラオケにも行けず、ストレスの発散場所が減りました。テレワークの環境を整えた結果、出費が以前よりも増えました。



コロナ禍でも活動を続ける 『男女平等はどこまで進んだか』

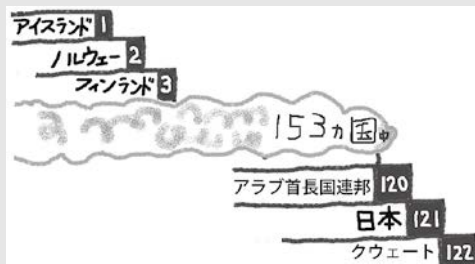
(岩波ジュニア新書 国際女性の地位協会・編)

執筆者のひとり高岡日出子さんに聞く

日本は、国連の女性差別撤廃条約を1985年に批准しました。その後、1999年に議定書が制定されました。日本は条約を批准しましたが、この議定書を未だ批准していません。2019年の世界ジェンダーギャップ指数が153か国中121位の低さなのです。私の参加している国際女性の地位協会では、条約の実効性を強めるために選択議定書の批准を求めてきました。現在は、運動団体「女性差別撤廃条約選択議定書アクション」が2019年に設立され、議定書の運動（署名活動やシンポジウム開催）を続けています。「2分でわかる 選択議定書」の動画が協会の新ホームページにあります。

* JAIWR：国際女性の地位協会 <http://www.jaiwr.com>

* 世界ジェンダーギャップ指数（世界男女格差指数）：WEF（世界経済フォーラム）が毎年発表している政治・経済・教育・保健（健康）の4つの分野で男女間の不均衡を示す指標のこと。



小平要約筆記サークル 「ほおずき」の筆談ボード

「ほおずき」は中途失聴・難聴者の方の支援をしています。コロナ禍でのマスク着用の会話は口元が見えず、聞き取りが難しくなっています。聞こえにくい方を理解していただくために『聞こえのお役立ちブック』を作成し公共施設で配布しています。また筆談ボードの利用も呼びかけています。文字を見ることで情報がより伝わりやすくなります。



《問合せ》

佐野 電話・FAX 042-332-6300

いかがでしたでしょうか。小さいことでも新しいことに取り組んだり、工夫して取り組んでいるお話を聞いて、一人じゃない、と勇気をもらいました。まだまだ前のような日常に戻ることは難しそうですが、ニューノーマル時代を一步一步進んでいきましょう。

ひらくの言葉 「アンコンシャス・バイアス」

無意識の偏見や思い込みを意味します。自分が経験してきたことや周りから聞いてきたことなどから、自らが意識しないまま判断する脳の働きで、何らかの形で誰もが持っている感覚です。

根拠もないのに自分だけは大丈夫、と思う正常性バイアスはそのうちのひとつです。子育て中の女性は仕事ができないと考えるステレオタイプバイアス。このような他の人に対して偏見や思い込みに基づいた何気ない働きかけや行動は差別にもつなが

り、職場や学校など社会の中で大きな問題にもなります。また、多様性のひろがりを阻害することにもなりえます。



アンコンシャス・バイアスを意識することで、様々な困難をかかえる人たちへの偏見や差別をなくすことができます。いま、企業などでは組織改革の一環として、アンコンシャス・バイアスを自覚することで人材育成や人材活用を見直し、多様性のある環境づくりをしようとする動きが出てきています。(浅)

男女共同参画講演会の報告

「現役パパのリアルトーク」

男性育児の本音と工夫

2020年10月18日(日)
小平元気村おがわ東 多目的ホール



小平市男女共同参画センター登録団体主催の、現役パパによる講演会が開かれました。「男コピーライター、育児をとる。」(大和書房)の著者、魚返洋平さんと3人の現役パパが、次々に子育て体験を話しました。会場では少年野球チームのユニフォーム姿の男性や夫婦、おばあちゃん世代の人たちが静かに耳を傾けました。どのパパも子どもが可愛いと感じながら子育てをしていること、妻の気持ちに配慮しようという強い意志を持っていることがわかりました。中には「大学生のときから将来、育児をとろうと思っていた」と話す人もいました。自分が子育てをしていた45年前は、子どもが5人いるお父さんが幼稚園のお迎えに来ると、お母さんたちから好奇の目で見られていたことを思い出しました。時代は少しずつ変わっていきます。(上)

男女共同参画推進に関する市民意識・事業所実態調査を実施しました。

小平市では令和2年9月に「第四次小平市男女共同参画推進計画」策定のための基礎資料として、男女共同参画推進に関する市民意識・事業所実態調査を実施しました。

調査報告書は、市役所1階市政資料コーナー、東部・西部出張所で閲覧できるほか、1部800円で販売しています。男女共同参画センターでは、閲覧のみできます。

報告書データはこちら↓



知っていますか？
いろいろなか
相談窓口

性犯罪・性暴力
被害者のための
ワンストップ支援センター
8891
(はやくワンストップ)

性犯罪被害
相談電話
8103
(ハートさん)

DV相談ナビ
8008
(はれれば)

DV相談+ (プラス)
☎ 0120-279-889
(つなぐはやく)

ひとりで悩まず
まずは相談を



『ひらく』の書棚



小平市男女共同参画センター“ひらく”にある本の紹介です。

『タネの未来』 「僕が15歳でタネの会社を起業したわけ」

小林 苗 著
〈家の光協会〉
1600円＋税

タネと言っても、本書で取り上げているのは作物のタネに限っています。その理由は、著者が日本各地の無名の伝統野菜のタネを探し求めて販売しているからです。伝統野菜とは特定地域で栽培されているため消滅する可能性が高い野菜を指します。そんなタネ（＝多様な食文化）を未来に残したいと考え、著者は中学3年生で「鶴頸種^{しゅくけいしゅ}流通プロモーション」という会社を起業したのです。

一人でも多くの人に、タネが現在置かれている意外と穏やかではない状況と、タネの奥深く面白世界を知ってもらえたらと思いい執筆に至ったそうです。作物の開発の歴史、遺伝子組み換え作物、種苗メーカー企業のことを始め、彼の熱意から家族や周りの大人たちが協力してくれた様子も盛り込まれており、読み応えのある作品です。（幸）



『王子と騎士』 『村娘と王女』

ダニエル・ハーク 著
〈オークラ出版〉
各1700円＋税



「真実の愛」「運命の相手」を見つけました。めでたしめでたし。そんな、昔からよく目にするストーリーがこの絵本では描かれています。真実の愛や運命の相手が一体何で何者なのか、それはだれにもわかりませんが、絵本で描かれた4人は、それぞれが素敵なパートナーを見つけることができました。

この絵本では、同性カップルが直面する葛藤をあえて描かず、「パートナーと幸せに暮らし、自分らしく生きる」との普遍性がとても簡潔に示されています。啓蒙ではなく、未来を生きる子どもたちに捧げる「一次情報」としての役割を果たしたいという作者の意図が感じられました。（F）

『これからの男の子たちへ』

太田啓子 著
〈大月書店〉
1600円＋税

「男の子らしく育てる」とは、どういうことなのでしょう？ 著者は弁護士で、2児の男の子を育てる母親です。「男の子らしさ」を押し付けた子育てに疑問を持ち、私たちが直面する性差別やジェンダーバイアスの問題を取り上げています。

中でも、思春期の「性教育」は親にとっても子どもにとっても避けて通ることのできない課題です。性教育をタブー視する風潮から、子どもにどう教えたらいいか分からず悩む方も多いと思います。しかし、「カンチガイ」したまま大人になることは、セクハラや性暴力を生み出す原因にもなります。

デリケートな話題ですが、子育てに悩む方にかかわらず、子ども世代など幅広い方々におすすめできる本です。読者に語り掛ける文調なので、ひとつひとつの話題を考えながら読むことができます。私たちが無意識に抱えているジェンダーバイアスと向き合う良いきっかけになることでしょう。（T）



*男女共同参画センターで借りることができます。小平市立図書館で所蔵している本もあります。

行って
みました

小平市立中央図書館

企画展示「女とか…男とか…」

「多様性を性別から考える」

2020年7月18日から10月14日

まで、中央図書館で「女とか…男とか…」多様性を性別から考える」と題して、本の展示が行われました。

「女らしいとか男らしいとか固定観念で話す人が多い一方で、性の多様性を語る人も増えていきます。そのテーマで図書の検索をすると、150冊ほど見つかったので、この展示を企画しました。」担当者は話します。

展示する本は、年代や性別に偏らないよう心掛けたそうです。装飾をつくる際、性別を連想するシルエツ



トや色など、たくさんの方に、思い込みがあること、性別や家族の様々な在り方についての本がたくさん出版されていることに、変わっていく未来を感じたとも話してくれました。展示中は、出版年が新しい本や子ども向けの本がよく借りられたそうです。担当者は、「これからも利用者の方々が、楽しみながらも新しい発見ができるような企画をつくってきたい」と力強く語っています。

普段本棚に並んでいるだけでは手に取らないような本も、展示してあると、新しい気づきがあったり、興味をひかれたりします。新しい情報を得ると、人はきっと変わります。今回の展示で、性別に対する意識が変わった市民もたくさんいることでしょう。

(高)



「表紙について」

撮影 長塚 秀人
作品 木島 弘美



三月は別れと旅立ちの季節。草花は芽吹き、春の香りを感じながら、新しい出発に想いを馳せる時です。今、コロナ禍で不自由な思いをしながらも、たくさんの方が新しい出発へ向かって一歩踏み出そうとしている姿をイメージしながら、明るくて柔らかい色のパステルカラーの折り紙で、丸いフォルムの蝶を製作しました。玉川上水を自由に飛び回っている蝶々のように、皆が自由に羽ばたける世界になりますようにと願いを込めて。

(木)

編集後記

● 仕事や趣味などで多くの方とふれあひ、会話を楽しむことが好きです。今回「ひらく」の編集に関わることに、ページをゼロの状態からデザインカッシーンを重ね作り上げる貴重な体験ができました。数ページの紙面の中にも皆の思いがギュッと詰まっているんですね。

● 本号が出る頃には、前号より「コロナは収束しているのでは」という淡い期待もあったが、まだまだ安心はできない状況が続いている。「強い種が残るのではない、変化できる種が残るのだ」という言葉があるが、特集でみなさんが工夫をされているエピソードを聞き、この変化を楽しむ気持ちを持っていたいと思うようになった。

(N)

ひらくはココにあります。

男女共同参画センター「ひらく」、公民館(11館)、図書館(11館)、地域センター(19館)、大学(6か所)、福祉会館、市民総合体育館、児童館(3館)、市内保育園、幼稚園、健康センター、健康福祉事務センター、市役所、東部・西部出張所、郵便局(17か所)、市内各駅(7か所)、ふれあい下水道館

小川町 手作りのクッキーの店歩、商工会館、JA 東京むさし、小平警察署、小平消防署小川出張所、南台病院、和泉処

小川西町 佐野商店、たましん小平支店、NMC ギャラリー、小川ホーム

小川東町 キャラリー青らんぎ 上水本町 アトリエ・パンセ

学園西町 ヒューティーサロンサンローズ、梁里館、美容室ヘアークラッシュ、本間歯科、ヘアサロンサンライズ、笹間住宅資材、たましん一橋学園支店、学園接骨院、国際交流協会、しらかぎ鍼灸治療院

学園東町 日本堂文具店、梅の里、アクティブスタジオ、りそな銀行小平支店、おだまき工房、きそ歯科クリニック、ふく歯科、寝具センター丸新、美容室 Je、どりあん、一橋鍼灸接骨院、お化粧のしのだき、ミサワリフォーム株式会社、Kimamaya T&K

美園町 多摩済生病院、カフェガラス、珈琲の香、POEM(ぼえむ)、永田珈琲、ルネこだいら、子育てサポートきらら、アンデスの家ホリビア

仲町 小平消防署 大沼町 ガスミュージアム

花小金井 公立昭徳病院、Cafe & Deli hug

広報誌「ひらく」の最新号はこちら



小平在住・在勤・在学の女性を訪ねて、そのいきいきした様子や元気の素を伝えます。

いきいき レディ 46



1976年、福岡さんのお父さんはチャランゴ(*1)製作、お母さんは機織りを学びにボリビアに渡り、翌年帰国し、神奈川県で日本初のボリビア楽器の店「アンデスの家ボリビア」をオープンしました。

店でなく、家とネーミングしたのは、「お父さんの想い」があるからだそうです。演奏家や、フォルクローレ(*2)サークルの大学生たちが集うようになり、面倒見の良いお父さんは家に泊めたり、後払いで楽器を学生に提供していました。3歳の頃にお母さんを亡くした福岡さんは、子どものころからボリビア音

ボリビアの音楽を聴きながら、ボリビアコーヒーやボリビアのパイ、サルテーニャなどを楽しめて、中南米の文化を感じられる場所が小平にできました。

福岡 永梨 (ふくおか えり) さん

楽と演奏家、お客さんたちに囲まれて育ちました。お母さんの思い出がほとんどなかったそうですが、お客さんたちからお母さんのエピソードをたくさん聞いて、母の姿を思い描きました。

10年前に、小平市へ店を移転しましたが、2018年に闘病中だったお父さんが亡くなり、店の存続が危ぶまれました。福岡さんは、もともと父親の仕事に継ぐ気はなかったので、当時は大学職員として働いていました。しかし、遺された楽器と今まで紡いできた人との関わりを断ち切りたくないという想いから、大学の仕事にやりがいを感じていたものの、辞める決心をして店を続けることにしたそうです。

引継ぎなしに店を継いだので、困ったことはお客さんにサポートしてもらい、現在に至ります。「血のつながりのない人たちにもたくさん助けられてきたことが財産です。」と福岡さんは言います。

2020年8月には、店内でフォルクローレを聴きながら、こだわりのボリビアコーヒーなどを味わえるように改装しています。

福岡さんは、「この仕事はやりがいがあり、心の充実を感じます。2020年末からは、店内でミニライブも開催しています。小平の人たちにボリビア音楽を広めていきたい。」と話してくれました。(A)

*1 40~60センチほどの弦楽器 (写真参照)
*2 ラテンアメリカ諸国の民族音楽



第24回 ^{ひと}女と男のフォーラム ^{ひと} コロナ禍でも **こどもが笑顔になるためにできること**

令和3(2021)年2月13日(土) ルネこだいら レセプションホール



講師 湯浅 誠 さん

社会活動家
東京大学先端科学技術研究センター特任教授
NPO 法人全国こども食堂支援センター・むすびえ理事長

こども食堂はこどもが食事をする場ですが、地域のさまざまな人たちがこどもと一緒に来て、食事をしながら話し合い、楽しく交流する場でもあります。こども食堂は2012年に始まって、2020年には全国に5000か所以上数えるほどに増えています。

こども食堂を支援する活動をしている湯浅 誠さんは、「いろいろな人とのつきあいを経験したこどもは、大人になったときに役立つことを学んでいます。」と話されました。会場に来た市民はだれもが笑顔で話を聞いて、納得したようでした。

ひらく

第48号
令和3(2021)年
3月発行

発行/小平市地域振興部市民協働・男女参画推進課
☎ 042-346-9618 FAX 042-346-9575

企画・編集/小平市男女共同参画推進実行委員会

浅野 里美 木島 弘美 玉井 莉子
安食世津子 北川 紘二 藤永 雲羽
岡 武左 高橋 雅子 中丸友里恵
岸 和夫 谷原 裕子 中村 幸世

令和3(2021)年度 小平市男女共同参画推進実行委員 募集!

男女共同参画を進めるため、講演会の企画・運営、広報誌「ひらく」の企画・編集などの活動をしていただける方を募集します。任期は令和4(2022)年3月末までです。

対象 ・市内在住・在勤・在学の方(経験は問いません)
・月1~2回の会議(平日または土曜日の昼間に開催)に参加できる方

募集期間 令和3年4月5日(月)~4月23日(金)

応募方法 下記の必要事項をご記入の上、郵便・FAX・電子メールで応募先へ。
①氏名(ふりがな) ②住所 ③生年月日 ④応募動機 ⑤メールアドレス

応募先 小平市 地域振興部 市民協働・男女参画推進課 男女共同参画担当
詳細は市報4月5日号または小平市ホームページをご覧ください。